

管内視察報告書

1, 会派 : さくら会

榎木 智幸 、中村 千佐江

2, 視察先・テーマ及び日時

■令和6年5月22日(水曜日) 9:00～

都城市下長飯町5453番地 都城市斎場

「都城市斎場の施設の現状確認について」

3・4, 視察内容及び感想

環境保全課・場長・指定管理者職員に対応をいただいた。初めに斎場の概要と平面図で内容について説明を受け、その後、管内利用者の順路に沿って各部屋や機材等を回りながら説明を受けた。まず、告別室では葬祭業者との時間の設定、一時間で3件受け付けており時間配分に大変気を使うことを伺い、見送りホールでは現在8機ある台車が古くなり今後4機の入れ替えが予想されていること、炉の中もどのようなになっているのか修繕状況と合わせて見せていただいた。その後収骨室に行き骨壺などに入れる手順・対応の変化を伺った。ホールに出てまず目についたのが天井に雨漏りのようなシミが何か所もあり、エアコンからのシミではないか、又、天井の照明が暗く感じていたがホールだけに限らず多くの場所で電球が切れており、早急に対応していく説明を受けた。待合室は畳の和室となっているが、利用者からの要望もあり3室の内、1室を洋室にしていく予定ということだった。脱衣所の設置も考えていて洋室化と合わせて整備していくとのことだった。敷地内の樹木においてはきれいに整備されており職員ができるところは自主的に行っていた。

5, 視察の成果と市政への反映等

今回の研修で気になったのが斎場の竣工が平成2年ということで、既に35年を経過しており施設の老朽化による劣化が進んでいるのではないかと、これから2025年問題で高齢人口が増す中現在の炉の数や機材で対応できるのか気になったところだ。説明を受ける中でまず気になったのが、床面が全体的に古く新装の必要性を感じた、また、電気系統の故障ということであったが、多くの電球がついていなかったことは改善の余地を強く感じた、電気量の節約・長寿命化のためにもLEDの導入を全館的に行う必要性を感じた。また、竣工以来35年間一度も使用料の改定を行っていないとのことであったが、受益者負担の原則からも整備にかかる費用の一部負担を考えても値上げの必要性を感じた。

4 視察の感想

斎場は、全体に清潔に保たれていたが、思ったより損傷箇所が多いのが認められた。施設の特性上、きらびやかである必要はないが、ホールの照明が半分ほど切れている箇所もあり、予算配分が十分でないと感じた。

一番に気になっていた火葬炉の老朽化については、修繕を重ね、耐久性を延長するための努力が感じられる。タイルなど表層的な部分の劣化も気になったが、火力のコントロールが未だ職員の手加減によって行われていると知り、34年の間の技術的革新によってもっと効率よく処理できるものを取り入れても良いのではと強く思った。社会的に働き手不足の今後において、忌避されやすい職場であるとするにあたり、最新鋭の機械導入による職員への負荷の軽減は避けられないであろうと考える。

また、待合室の洋室化や、更衣スペースの確保など、利用者のニーズに変化が生じているのを実感し、それぞれに対応しようと努力されていることに感心したが、限界があるのではとも思った。

利用者である市民の側も、継続的に使用することの少ない施設であるので、改善を求める声が市民から上がることはほぼないと思われるが、誰もが一度は利用することになる施設でもあり、随所において大きく改善が必要な施設であるというのが一番の印象である。

5 視察の成果および市政への反映

電球の取り換えについては、LED化も含め、早急に取り組める部分である。予算化を提言したい。

火葬炉の全体的な更新については、炉の運用を止めるわけにいかないため、慎重に検討する必要がある。よって、更新完了まである程度の期間を見込んで、早い時期からの検討が必要と思われる。更新の時期を具体的に検討するよう提言したい。